



# 福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2007

4月25日号

102  
VOL.

発行所 社団法人 福島県放射線技師会

〒960-8003 福島市森合字蒲原16-7 TEL/FAX 024 (559) 1043

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

会長 片倉俊彦

日本放射線技師会から定款改正に関する書面表決の提出依頼が会員の手元に届いていることと思う。この表決は単なる委任状とは趣を異にするものであるが、その内容を理解し各自の判断で「賛成」「反対」「保留」「棄権」等の意思表示をして頂きたい。

まず、この書面表決の意味合いについて説明しよう。

日本放射線技師会の定款では第39条において代議員総会をもって総会に替えることが出来ると規定している。このため、通常の場合についてはこの代議員総会で決定されている。

しかしながら、この定款の45条では定款改正は会員の2/3以上の出席する総会で2/3以上の賛成を得ることを求めている。つまり、通常行っている代議員による総会で代替することが出来ないのである。従って、定款改正に関して代議員総会は何の権限もない。ここで物理的に開催不可能な全会員による総会に変わるものとして書面による総会を行うこととなる。つまり書面表決とは定款改正のための書面による総会であり、この書面による「賛成」「反対」「委任」は採決に対する意思表示である。この採決の意思表示は、本来「賛成」「反対」「保留」という形であるべきであるが「会長委任」という実質賛成（自分で提案し反対する道理がない）の項があり、採決の問いが「賛成」「反対」「実質賛成」となっている。現在の定款を十分に理解していない会員にとっては通常代議員総会への委任状と誤解し易い形の紛らわしいものとなっているところは非常に大きな問題ではあるが、会員の基本的な権利に関する部分で会員の民法上の権利が曖昧であるなど大きな変革を含む改正案であり是非とも「書面表決」という「全会員総会」に参加し、自らの意思を表明するとともに技師会の将来を見据えていただきたい。

この全会員総会への参加に際し、提案されている定款改正案の内容が良く理解できないというかたは提案した技師会の説明（技師会誌掲載）や改正案の問題点をまとめている埼玉県放射線技師会の資料（同技師会ホームページにアップ）など参考となる資料があるので参照願いたい。また、それらの資料が入手困難なかたは役員の方まで連絡を頂きたい。また、信頼できる役員の方などに相談されるのも良い方法である。

一つの事象にたいし多くの異なる解釈があることは世の常である。多方向からの意見を参考に自分にとって最も有利と思われる判断をしてこの書面表決という形を変えた総会に一票を投じて欲しい。

## 平成18年度 第3回理事会議事録

日 時：19年3月2日（金）午後2時～4時15分

会 場：県立医大放射線部カンファランス室

出席者：片倉会長、斎藤(康)、鈴木副会長、馬場監事、  
斎藤(重)泰、今野、森口、白川、富塚、飯野、  
長川、八巻、新里、遊佐理事、伊藤事務局長、  
村上事務局員

欠席者：本田、吉田、持館理事、高橋監事

議 長：鈴木副会長

議事録作成人：秦

議 題：

- 1) 報告
- 2) 平成19年度事業計画
- 3) 平成19年度予算計画
- 4) 次年度役員選出について
- 5) その他

### 1、会務報告

- ① 浜支部八巻理事より19年度総会は5月19日～20日  
新舞子ハイッで開催され、特別講演は「いわき市立  
美術館の魅力」と題して開催することが報告された。
- ② 伊藤事務局長より、2月17日選挙管理委員会が開催  
され、下記の日程が決定された事が報告された。  
告 示 3月1日  
支部推薦受付 4月1日～29日
- ③ 鈴木副会長より県学術大会の決算報告がなされた。
- ④ 片倉会長より県からの払下げの電離箱式サーベー  
レーターを校正整備して各支部に貸出しすることに  
したので、有効に使用して頂きたいと報告があった。

### 2、総会資料の検討

- ① 表彰該当者について  
・20年表彰者を各支部で該当者を把握し伊藤事務局長  
に報告する事とした。  
・学術奨励賞受賞者を選考して報告をおこなう事と  
した。
- ② 総会役員の各支部担当者を選出して報告する事と  
した。
- ③ 資料18年度事業報告・会計報告について訂正・追  
加がないか検討した。
- ④ 資料19年度事業計画・予算案について検討した。  
その中で片倉会長から平成20年に施行される新法  
人認定に即した、適正な予算書の作成が必要になる  
ことから、法人として分離している日放の会費を支出  
に計上することは出来なくなる。また支部助成金とし  
て支出している補助金についても支出項目を変えて  
計上することが必要となってくると説明があった。
- ⑤ 総会資料(案)で必要な報告、訂正箇所を3月23日  
まで片倉会長までにメールする事とした。総会資料  
は4月末までにCDで作成し会員に配布予定。

3、次年度役員選出について片倉会長より報告があった。

会長・副会長の人選が難航しており結論が出なかった。  
次回4月6日の理事会で協議する事とした。

### 4、その他

- ① 村上事務局員から17年度会費未納者、18年度会費  
未納者について報告があり、17年度未納者8名につ  
いては除名処理を行うことを決定した。  
18年度未納者については再度各支部において督促  
を行う事とした。
- ② 八巻理事より会報への会員名簿の掲載について、  
個人情報保護法上から掲載内容項目について審議す  
るよう要請があった。施設会員は〔方部名・会員  
番号・施設名・氏名〕、個人会員については〔方部名・  
会員番号・氏名〕を掲載することを決定した。  
村上事務局員より各支部に名簿を送付するので訂  
正箇所があれば報告する事とした。
- ③ 飯野ネットワーク委員より技師会HPについて。  
・会員のHPのパスワード周知されていないようだ  
ユーザーID「bandai」、パスワード「bandai」  
・学術大会抄録のHPでの公開を図って行きたい。  
・事務局の行事予定は早めに連絡してほしい。  
・各支部の行事予定をHPに掲載したいので支部委員  
に連絡していただきたい。  
以上HPの内容の充実を図って行きたいと報告が  
あった。
- ④ 斎藤副会長より「中西しげあき後援会放射線技師  
部会」より支援要請があったこと、3月14日に本人が  
ビックパレットに来福の予定である事が報告された。  
次回理事会は4月6日に開催する事となった。

### 会員移動

氏 名	旧施設名	新施設名
秦 昭吉	県立会津総合病院	県立宮下病院
平塚 幸裕	県立宮下病院	県立会津総合病院
大竹 健司	県立猪苗代病院	県立大野病院
緑川 正人	県立リハビリ飯坂病院	県立総合療育センター
八木多美子	県立リハビリ飯坂病院	福島医科大学病院
長谷川和己	県立大野病院	県立会津総合病院
斎藤 真一	県立三春病院	県立矢吹病院
加藤 陽一	白河厚生総合病院	双葉厚生病院
岩東 正人	双葉厚生病院	白河厚生総合病院
今野 広一	いわき市保健所	総合磐城共立病院
志賀 秀範	総合磐城共立病院	いわき市保健所
佐藤 尚司	鹿島厚生病院	いわき市立常磐病院
渡部 幸雄	福島県保健衛生協会	保健衛生協会会津地区
有松 忍	福島県保健衛生協会	保健衛生協会県南地区
棚橋 美香	保健衛生協会県南地区	福島県保健衛生協会
上石 信一	保健衛生協会会津地区	福島県保健衛生協会
片倉 俊彦	福島医科大学病院	個人
山野辺 明	いわき市立常磐病院	個人
田仲 新夫	いわき市立常磐病院	個人
持館 博志	公立相馬総合病院	個人

## 平成18年度 第4回理事会議事録

開催日：平成19年4月6日 午後2時～

場所：県立医大放射線部カンファランス室

出席者：片倉会長、斉藤、鈴木副会長、吉田、斉藤（重）、  
秦、持館、白川、長川、富塚、飯野、遊佐、今野、  
新里、森口、八巻理事、事務局伊藤、村上

議長：斉藤副会長

書記：八巻（浜通り支部）

### 1) 報告

片倉会長 会長会議報告

日本放射線技師会の定款改正は、2/3以上の会員を集めて総会を開くのは、物理的にも困難なので、書面評決となった。

それぞれの会員が、情報を集めて自分の判断で書面評決に参加してほしい、福島県としても機会をとらえて情報提供して行きたい。

### 2) 平成19年度事業計画、予算

総会資料の確認と修正

各理事が情報を持ち寄り、資料の修正を行った。

決算、予算報告の説明が行われ、内容を確認した。

○飯野理事：ネットワーク委員会として、メールマガジンを発行して会員に情報を伝達したい、登録をした会員だけに配布する方式で、当初はホームページ更新のお知らせ程度。経費は最初の6ヶ月が5,000円でその後は6ヶ月毎に3,000円。

○会長：担当者は大変だが、基本的には問題がないと思われるので、総会で説明する。

○富塚理事：会費は福島県放射線技師会宛に日本放射線技師会の分も含め25,000円納入しているが、福島県放射線技師会の収支決算書に日本放射線技師会の分が明記されていないが、問題はないか。

○伊藤事務局長：会計帳簿的には明確に分離してあるので問題ないが、取り扱いをどうするか、預かり金等で対処するか、決めた方がよいと思う。

○会長：日本放射線技師会では直納でも県経由でも可との方針であり、本県では県経由を選択している。

○伊藤事務局長：平成20年度から日本放射線技師会の会費が4月までに納入と決まっており、これらを含めて、時間をかけて討論すべきであり、総会にもかけ説明が必要でしょう。

○会長：別会計で表記してはどうか。

○伊藤事務局長：取り扱いが良くわからないので、会計事務所に相談してみる。

○会長：可能ならば今回の議案書に盛り込めるか。

○伊藤事務局長：来週中に会計事務所に確認する。

○会長：6号議案として、“日本放射線技師会会費の直納制について”を加える。

### 3) 次年度役員選出について

次期会長は現在の片倉会長が留任する、斉藤、鈴木

両副会長も留任。会長指名の理事は遊佐 烈（県北）、馬場 栄二（会津）、新里 昌一（県南）の3名。会計監査（監事）は浜通り支部から選出、浜の支部長名で推薦状を提出すること。

なお推薦状は、選挙管理委員長（堀江常満氏）宛にして、県立医大の鈴木副会長へ送る。

### 4) その他

○伊藤事務局長：県総会資料掲載分のほか、表彰関係は次の方々に内定した旨通知がきている。

日本放射線技師会60年の記念表彰として

厚生労働大臣賞	馬場 栄二氏
日本放射線技師会功労表彰	伊藤 陸郎氏
平成19年度県知事表彰	持館 博志氏
春の叙勲	渡部 浩一郎氏

○伊藤事務局長：学術大会の参加登録券は4月15日が締め切りなので、未販売の分は回収する。各支部とも30年表彰の対象者にもう一度声をかけてみる。

○今野理事：会報と同時に発行する会員名簿は、会報に綴じ込まないで別冊としてはどうか。

○会長：今回の名簿は氏名と施設名だけなので、個人ではなく各施設に一部づつ別冊として渡すことにする。

○飯野理事：生涯教セミナー（AD）を平成19年度も実施予定だが、赤字が見込まれるがどうするか。4科目のうちで看護学と医療学は放送大学を受講すれば単位が得られるので、こちらの方法を進める、医療安全学は本会会員の講師が多いので経費が抑えられる、救急医療学だけは外部に講師を依頼するので採算が取れない。

○会長：生涯教セミナーに関しては全国的にも問題が出ているので、プログラムや開催場所も含めて、本部に確認してみる。

○会長：前もって受講の募集をかけて、参加人数の把握をしてから補助金等を考えてはどうか。

以上で議事を終わり16時10分終了。

## 理学療法士等修学資金修学生募集

福島県は、標記について放射線技師を含めて学生募集しています。ご利用ください。

- ①卒業後、県内の施設に勤務すること。
- ②免許取得後、直ちに県内施設に貸与期間の1.5倍の期間勤務すれば修学資金の返還免除。

貸与額：月額 36,000円

貸与期間：決定から卒業まで

募集人員：10名程度

問合せ先：

〒960-8670

福島県保健福祉部健康衛生領域医療看護グループ

電話 024-521-7238



## 支 部 ( 便 り )

## 県北支部

## 第6回MDCTカンファレンス開催される

平成19年2月24日(土)福島テルサにて、第6回MDCTカンファレンスが開催された。今回は「LUTとモニターの関連について」をテーマに4題の講演が行われた。はじめに学術講演として、福島県立医大放射線部の村上克彦氏より「あなたの施設・モニターとフィルム合っていますか～県北地域におけるDisplay Consistencyの現状～」と題し、各施設におけるCRT及び液晶モニターとフィルムのイメージャー特性について、またモニター観察環境の明るさによる違い等について、具体的なわかりやすい講演があった。次に教育講演として、東芝メディカル(株)CT事業部営業推進部の森下康之先生より「モニターとLUTとの関係」について、また富士メディカル(株)イメージソリューション部アプリケーショングループの小川博之先生より「DICOM PrintとLUTの関係」について、それぞれのメーカーから見た関係性についての講演が行われた。

最後に、このカンファレンスの専門医アドバイザーである大原総合病院副院長の森谷浩史先生より「モニター読影についての留意点」と題し、日頃のご自身の仕事環境や、臨床画像を通し、MDCTとモニター診断の利点・留意点について大変わかりやすいご講演をいただいた。今回のカンファレンスも各施設より多数の参加者があり、終了後の懇親会では様々な意見交換や情報交換が盛んに行われていたようでした。(池田)

## 県南支部

## 県南支部新年勉強会開催される

平成19年3月29日(木)午後7時から郡山市(助)脳神経疾患研究所付属総合南東北病院大講義室にて第16回福島県MRI技術研究会県南地区勉強会開催されました。

今回は若手技師中心に語り合える会とし「今更聞けない疑問点？」と「Pulse Sequenceの使い分け」の2本柱をテーマにして開催されました。

## 1. MRI基礎シリーズ「今更聞けない疑問点? I」

## ① STIR って何?

(助)太田総合病院太田西ノ内病院 新里昌一氏

## ② T2\* って何?

(助)総合南東北病院 赤石沢孝氏

## 2. MRI撮影技術シリーズ I「Pulse Sequenceの使い分け」～骨盤部でのT1W T2Wが欲しいけどSpin Echo/高速Spin Echo/どれを使うの?～

(助)太田総合病院太田西ノ内病院 佐竹正規氏

## 3. フィルムディスクッション

テーマは「当院の骨盤部T1WT2W Pulse Sequence」で、寿泉堂総合病院・白河厚生総合病院・公立岩瀬病院・総合南東北病院・太田総合西ノ内病院の各施設代表者がPC

プレゼンテーションで発表し、若手技師からの質問などもあり、有意義な研究会となりました。(車田)

## 会津支部

## 第24回 会津MRI研究会 開催

平成19年3月9日(金)、竹田総合病院山鹿クリニックにおきまして、第24回会津MRI研究会が開催され、2題の発表がありました。

まず最初は、頸部の脂肪抑制についての考察とすることで発表がありました。実は、前回の会津MRI研究会のなかで、頸部脂肪抑制のムラを軽減するために、身近にあるさまざまな物質(コーヒード、シリカゲル、米など)を使用して補助具を作り、どのような効果があるか試してみようという話題があり、今回はその結果報告でした。実験結果としては、あまり画像に影響がなく、専用の補助具が必要であろうという結論でしたが、もともと頸部の脂肪抑制は、信号の均一化をはかるのがなかなか難しい部位であるため、各施設でさまざまな創意工夫がなされているようでした。

もうひとつはMRCP用の新しい造影剤についての使用結果発表でした。この新しい造影剤は、従来のものと比べると、非常に少量(50ml程度)で腸内信号を抑制できるもので、特に高齢者など飲食が困難な患者に対して非常に有効であろうとのことでした。また、新旧両方の造影剤を使用した実際のMRCP画像で、フィルムカンファレンスが行われました。両者とも腸内信号が抑制されており、その種類や使用量などでの大きな画像変化は見受けられませんでした。しかし、効果が同じでも従来品より薬価が安いことを考えると、DPCを見越して作られた造影剤なのかも知れないと思いました。(森谷)

## 浜通支部

## 第2回 相双画像診断勉強会開催される

平成19年2月21日(水)午後6時45分から南相馬市原町区のホテル・ラフィーナにおいて20名を超える参加者のもと第2回相双画像診断勉強会が開かれました。大原総合病院放射線科の森谷浩史先生より「腹部CT・MRIの撮り方と考え方」と題して講演をいただきました。腹部領域に適した撮影ポイントや造影タイミングによる質的鑑別などの症例を聴講しました。引き続き先生を囲み懇談会が開かれ日頃の疑問点などの意見交換や技術の向上に寄与できればと思います。(嶋田)

## 編集後記

会員名簿を作成したが、個人情報保護の観点で、施設名のみである、利用価値は半減するが、これも時代の流れか。新年度のスタートで情報が間に合わず、移動情報や会員名簿に一部新旧の混在や、欠落がありますが、お許しください。(八巻)